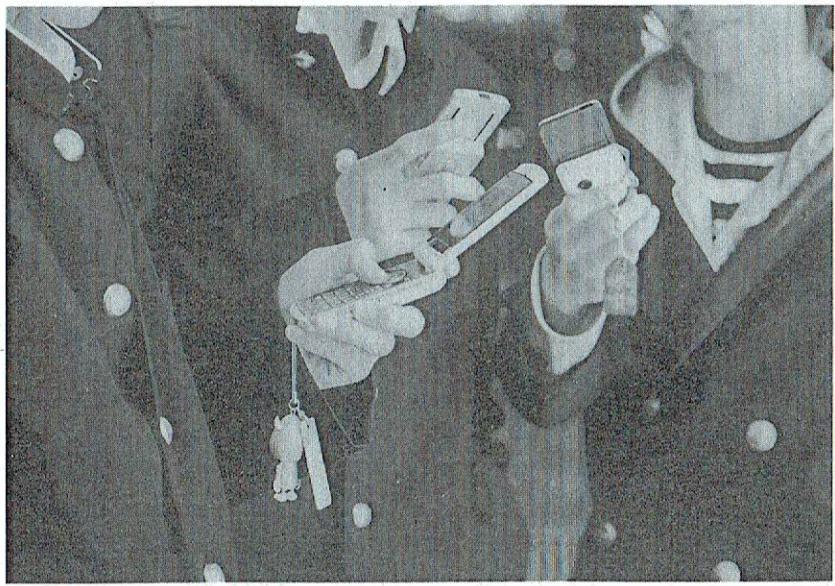
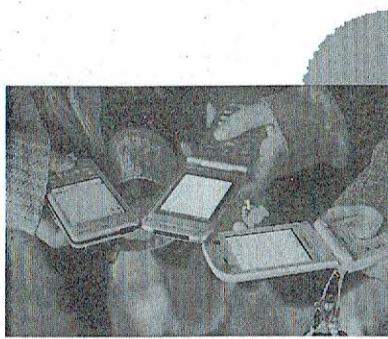


題字・永六輔



急速なケータイの普及から、いまや小学生の間にまで蔓延しているネットによるいじめ。複数の送り主をよそおい、連日200件以上もの嫌がらせメールを送るなりすましメールや、書き込みにより1人の子を徹底攻撃の場にもする「学校裏サイト」……増加する一方だ。送信側の顔がハレない分、加害者はより卑劣な行為へと暴走し、被害者はケータイの電源を切ることもできます。鳴るたびにドキドキしている

つた。
向かいの席で3人組の女子高生がケータイを片手に弾んだ笑い声をあげる。美紀さんはストローでオレンジジュースを少し口にすると、チラリと彼女たちに目をやり、その視線を窓の外へ移した……。美紀さんが父親の転勤に伴い九州から転校してきたのは小学校6年の時。「向こうにいたころは、クラスの子の半分くらいがケータイを持っていたんだけど、まだ早いって買ってもらえないつたんです。だから友達がうらやましくて、買ってもらつた時は、チヨーうれしかった」。彼女が都内の大手家電店で選んだのは、ソフトバンクの最新型モデル。色は大好きなピンクだった。さっそく、メールアドレスをクラスメートに一斉送信。ところが、しばらくすると、突然冒頭のようなメールが届き始めたというのだ。しかも、その数は20件を超えた。「エッ、マジ何これ? って感じだった。どれも見たことないアドレスだつたし。超バニクった……」これといって、嫌がらせを受ける心あたりはない。学校には登校したものの、ショックのため授業は上の空。給食ものどを通らない。「だって、私のメアド、クラス

生きてる 価値なくねえ? ヤリマン女!

（姿が見えないから、逃げ場もなく終わりもわからない）



（僕は世界一の幸せ者でした）
両親へこんな遺書を残して、兵庫県内に住む17歳の男子高校生が、通っていた私立高校の校舎から飛び降り自殺したのは昨年7月。
男子生徒は同級生を含む5人の少年に再三、金品を要求され、「払わなければ何をされるかわからん」といった脅迫のメールを送りつけられていた。さらに少年らは、男学生の実名や電話番号などの個人情報を載せたHPを作成。誹謗中傷を繰り返していた。中高生からの相談だ。

「お前マジキモいんだけど?」「ヤリマン女!」「生きてる価値なくねえ?」「お前マジキモいんだけど?」「ヤリマン女!」

「生きてる価値なくねえ?」柳沢美紀さん（14歳・仮名）のもとにこんなメールが次々に届き出したのは、一昨年の春のことだ。美紀さんは神奈川県内の公立中学の2年生。母親（42歳）に付き添われて、取材場所となつたアメリカレストランに現れた美紀さんは、ピンクのバーカーにジーンズ姿の、またあどけなきの残るごく普通の女の子だ

